

(二) 賃銀制度は、社會の成員の五分四を代表する賃銀労働者を、全然生産分配の問題に關與せしめず、生産要目及び一切の剩餘價值を、地代、利子、利潤の絶對的所有に歸せしめてしまふ。

(三) 熟練工又は團結ある労働者の場合の如く、賃銀が生活費の水準以上に出る時には必ず、その上に出ただけの縁は、失業者の豫備軍を維持する爲めの費用に喰込まれてしまふ。

(四) 労働者が資本家に對して、労働を商品として買ふことを許したが爲めに、不經濟な商人の大軍が発生した、そして商人は、剩餘價值を不健全極まる程度にまで擴張し、其結果分配は遂に生産の一要素たる地位を失ひ、其生産者に對する關係は、羊毛の刈り手と羊との關係を其儘の獨立の危険な事業を成すに至つたのである。

(五) 斯様な状態の結果として、大英國の産業組織は不自然であり、且つ社會の經濟的健康に取つて危険である。

(六) 地代、利子、及び利潤を廢する唯一の道は、賃銀制度を廢止するに在る。賃銀無ければ地代無し、賃銀無ければ利子無し、賃銀無ければ利潤なし。

(七) 經濟力は政治的勢力の親である。随つて、労働黨の政治的勢力は、其經濟力に依つて嚴密に制限されて居るといふことが出来る。賃銀が所有階級へ經濟力を賣却することを意味して居る以上、労働者は經濟力を持つことは出来ない、其結果、其政治的勢力は受動的である。然るに所有階級の政治的勢力は能動的である。

最後に、我々は、眞の解決は富の生産組織の根本的改造に求むるの外ないことを明かにした。今

や賃銀労働者は協力一致、我等は賃銀の爲めに働くことを欲せずと宣言すれば足るのである。賃銀制度の癡虛の中より、經濟上の新社會が発生し、其新社會の中に、富、價值、美術、文學に關する新しき概念、新しき人生觀が発生するであらう。凡ての賃銀奴隷は、そつといふ新社會に對して解放を求めねばならぬ、美術家、工藝家、著作者もそつといふ社會を熱望して居るのである。現社會の産業的理想は死んで居る、其思想も死んで居る、その宗教も死んで居れば、其の信者も死んで居る。十年の穩かならぬ眠の後に、先驅者は再び起つた。新しき希望が彼等を鼓舞する。本隊は彼等の信號に應じて、彼等の後へに随つて進むであらうか。(C. Hohen 山川均)

### マルクス傳

堺、山川共著マルクス傳、大鑑閣に發行權讓渡候處、今月、來月と發行延引致し、今尙校正中なりと聞き及び、已に御注文被下成候諸君に對し甚だ申譯なく存候故、退金か又は御待ちを願ふか、貴意を得度く、茲に謹告仕候、尙ほ年内中には發行せらるゝことは確と聞き及び候。